

授業科目名	呼吸器系の構造機能病態	授業形態	講義	配当学期	1年(後期)
担当教員名	島本 裕士	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>呼吸は人間の生命維持に必要な不可欠な生理機能である。また、発声発語器官の一つとしても重要な器官であり言語聴覚士の臨床においても深いかわりがある。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>機能・構造・病態とその治療法について説明できる。 嚥下や発声などST分野の関連を説明できる。 基本的な訓練や評価を実施できる。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	P2 オリエンテーション/呼吸とは/肺の構造 ※1年前期の復習的意味合いで実施、既知事項のみで構成				
第 2 回	P7 呼吸筋の視診と触診① ※呼吸パターン、視診の項目				
第 3 回	呼吸筋の視診と触診② ※ペアで視診実施、ペアで触診				
第 4 回	呼吸筋の視診と触診③ ※ペアで触診続き				
第 5 回	P10 バイタルサイン ※脈拍の測定、血圧の測定				
第 6 回	P12 肺音の聴診 ※ビデオを見て肺音を学ぶ、ペアで肺音聴診				
第 7 回	P13 肺の打診・肺の機能 ※肺の打診に関する座学、ペアで打診				
第 8 回	肺機能の測定① ※肺の機能に関する座学、換気障害・呼吸不全に関する座学				
第 9 回	肺機能の測定② ※肺の検査に関する座学、パルスオキシメーター・スパイログラム・6分間歩				
第 10 回	P19 治療総論 ※肺疾患の治療座学、吸引練習				
第 11 回	P22 用手的呼吸介助手技/排痰手技 ① ※用手的呼吸介助手技に関する座学と実技を並行実施				
第 12 回	用手的呼吸介助手技/排痰手技 ② ※用手的呼吸介助手技に関する座学と実技を並行実施				
第 13 回	用手的呼吸介助手技/排痰手技 ③ ※排痰手技に関する座学と実技を並行実施				
第 14 回	P25 呼吸リハビリテーション ※呼吸リハ練習→ストレッチが中心				
第 15 回	P25 学びのまとめ				
評価方法	定期試験で評価する。(100%)				
教科書 参考図書	〔教科書〕 言語聴覚士の為の呼吸ケアとリハビリテーション				
	〔参考図書〕 使用しない				
履修上の 留意点	座学だけではなく実技を取り入れながら実施していきます。授業の内容はフレキシブルに変動しますので都度指示を出します。初回にペアを決め15コマは常にそのペアで実技を実施します。休むと相方が困ります。				
メッセージ	国家試験、臨床場面に生かせるよう工夫します。学生同士、講義外であっても積極的に実技を行ってください。筋肉の場所確認・介助の練習等身体にふれます。いつでも触れるようTシャツ等薄い服を一番下に着といてください。脱げない分厚い服はダメです。				